

愛宕寺念仏寺の概要

愛宕念仏寺は、京都西部の嵯峨嵐山の奥にある静かな奥嵯峨地域に位置しています。この静かで落ち着いた、心地良い歓迎の雰囲気があるお寺は、神聖な愛宕山へと続く歴史ある参道沿いの山腹に建っています。愛宕念仏寺で特に注目すべき所は、たくさんのモミジの下にある 1200 体の仏教の羅漢の石像です。千手観音の像が祀られている本堂は鎌倉時代（1185～1333）に作られたもので、国指定重要文化財です。

お寺の記録によると、愛宕念仏寺は 766 年に、現在の京都の祇園地域の近くに建立されましたが、天災で幾度も被害を受け、数回再興されました。このお寺が保存のため 1922 年に今の所在地へ移された時、本堂は注意深く解体・移築されました、そしてその他の新しい建物も数棟、新たな境内に建てられました。

台風によって受けた損傷を修復するため、1980 年に一連の大規模な修理が始まりました。ほぼ同時期に、住職であり仏師であった西村公朝（1915～2003）は、お寺を復興するための事業を起こしました。この事業では、一般の人々を招いて境内に置く羅漢の石像を彫ってもらい、出来上がった 1200 体の石像は愛宕念仏寺の際立った特徴となりました。

このお寺には、その他にも注目すべき像や建築物が多数あります。触ってもいいようにデザインされた観音菩薩の像や、火災から身を守り、長寿祈願を聞き入れると言われている地藏菩薩の像、そして、仏教の教えの重要なコンセプトを表す、異なる音色を持った 3 個一組の鐘があります。